

②					
卒業制作					
科目名	卒業制作				
担当教員	廣田 邦昭		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>今まで学習してきた建築計画・設計の、考え方、進め方を演習を通し後期の卒業制作の準備として、前期にコンペ作品を制作させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマにもとづいたイメージの考え方と作成の手順を説明する。 2. 条件と規制に則した設計の進め方の再認識させる。 3. 説明→課題演習→チェック→フィードバックを繰り返すことで作品精度を上げる。 4. 最終的にはコンペに応募するのオリジナルプランを作成し、プレゼンを行う。 				
学習目標 (到達目標)	後期の卒業制作の準備として、前期にコンペ作品を制作し、応募する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	<p>目標・コンペ応募作品の作成及び応募・コンペ応募に向けてのプレゼンボードの作成方法を学びながら、作品を完成させ、コンペに応募する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題分析及びスケジューリング ②情報収集 ③コンセプト (1～3を提出後、適宜フィードバック) ④エスキース、プランニング (エスキースチェック後、適宜フィードバック) ⑤作品をまとめる。(途中で必要に応じてチェック) ⑥課題提出 ⑦プレゼンテーション 			<p>方法：コンペ応募作品制作を通して、卒業制作に向けてテーマに則したオリジナル作品の制作を行う。各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。課題分析からプレゼンテーションまで、全体構成等の基本的な方法や技術を学び、プレゼン発表までは個人・グループなどの個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。</p> <p>目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。</p> <p>準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習</p>	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>評価方法は左記の割合で評価しますが、期限内に提出がないものは評価の対象としない。</p> <p>課題評価点80%、授業態度20%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>後期の卒業制作に向けて、プレゼンボード、プレゼン資料作成のノウハウを学びましょう。トレンドの分析力、マーケティング要素、設計条件の整理と考え方の流れを意識して取り組むことがポイントとなる。企画内容の基本を固め、各作業工程の演習しっかり積み上げることを重視し作品精度を上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。</p>		
実務経験教員の経歴 店舗設計・現場管理に41年従事					

②					
卒業制作					
科目名	卒業制作				
担当教員	廣田 邦昭		実務授業の有無	○	
対象学科	建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>今まで学習してきた建築計画・設計の、考え方、デザインテクニックなどの集大成としての個人作品の制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマにもとづいたイメージの考え方と作成の手順を説明する。 2. 条件と規制に則した設計の進め方の再認識させる。 3. 説明→課題演習→チェック→フィードバックを繰り返すことで作品精度を上げる。 4. 最終的にオリジナルプランを作成し、プレゼンを行う。 				
学習目標 (到達目標)	2年間学習、習得した知識技術が生かされた精度の高い作品を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	<p>初期提出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テーマ・タイトル ②建設地・ ③コンセプト 			<p>各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。</p> <p>目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。</p> <p>準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習</p>	
2	<p>中間提出ー1</p> <ol style="list-style-type: none"> ①エスキース・ボードのコンテンツ配置図を提出 ・コンテンツは指導教員と協議の上決定する。 			<p>各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。</p> <p>目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。</p> <p>準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習</p>	
3	<p>中間提出ー2</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンテンツ提出 			<p>各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。</p> <p>目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。</p> <p>準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習</p>	
4	<p>最終提出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プレゼンボード提出・ ②プレゼンデータ提出 			<p>各工程ごとに、説明、解説を行い、進捗と精度の確認をする。プレゼン発表までは個別作業が中心のため、各課題項目ごとのスケジュールやクオリティの管理は常時行う。</p> <p>目標：作品の工程管理、精度ができているとともに、コンペ入賞を目的とする。</p> <p>準備学習：教科書、配布プリント、ネット上の情報の予習</p>	
5	<p>プレゼンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プレゼンテーション実施 			プレゼンテーション実施	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>課題評価60%、期限内での提出30%、授業態度10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>2年間の集大成として、しっかりと取り組ませる。テーマや、コンセプトについては必ず、担当教務との話し合いで確定させ、情報密度を上げて精度を高める。個人作業になるため、進捗管理と個人指導等、スケジュール管理に留意する。</p> <p>課題の評価はプレゼンを聴いた人たちの評価も加味する。</p>		
実務経験教員の経歴 店舗設計・現場管理に41年従事					